

地域をかえる確実な力を築くために

3月5日、県平和委員会第5回常任理事会が水戸で11名の参加で開催されました。日本平和委員会から岩月事務局次長も参加され熱心に聞き入っていました。今回の常任理事会は4月12日に開かれる第4回理事会に提案する県大会議案（運動方針など）の骨子と当面の具体的な活動の検討でした。主な討議は以下のとおり。

＜大会議案についての検討＞

1. 大会は5月24日（土）午前10時より。
於：県立青少年会館大ホール
2. 4月12日の第4回理事会で最終的に討議し議案を作成します。
3. 平和委員会の役員は「お疲れ様・ご苦労さん」の役。特に代表理事及び事務局長はオープンに理事会で話し合います。常任理事になって貰える人も広く求めていきます。理事については各平和委員会から推薦してもらいます。3～4年先を見ながら08年体制をみんなで検討していきます。
4. 平和委員会が地域での草の根運動を提起して6～7年が経過します。「地域でもっと運動が発展し理解されてもいいはずである」という疑問に答えられるように、原点に戻って組織活動改善を進めます。そのために3月22日の活動交流集会・県大会・08年度を通して検討していきます。
5. その他、県民への宣伝行動・自前学習会・他団体との共同行動等については略。

＜当面の活動・「3/22活動交流集会」を成功させるために＞

1. 各平和委員会の複数参加を要請します。
2. 交流内容：以下は参考資料であり、話し合いではこの枠にこだわらず自由です。

＜その1＞ 地域の活動でどんな点に配慮が必要なのか。

- ・地域の人々が平和委員会の存在と運動をどの程度理解しているか、
- ・いろいろな「つどい」が内々の集まりで終わっていないだろうか。多くの人々に参加して貰える工夫をさらにする必要があるのではないか。
- ・我々が正しい運動と思っている、それが県民・地域の人々に理解されているかどうかは別問題である。宣伝活動の工夫を話し合おう。

＜その2＞ 各平和委員会の組織運営の改善

- ・平和委員会はいろいろな人が参加する市民団体。階級性の労働組合や思想的に意思統一されている政党と違う事。みんなが話し合い、地域を変えるための知恵と工夫が話し合える会議になっているだろうか。
- ・病気の人・仕事で忙しい人・表面立って活動できない方などいろいろ。パソコンの得意な人・ハイキングやツアーの計画が好きな人・調査や学習が好きな人・チラシ宣伝ならもってこいの人など多彩である。運動は一人ひとりの総合力である。この事をお互いに理解し合っているだろうか。以上

活動交流集会のお知らせ

と き：3月22日（土）午前10時～午後4時
と ころ：水戸市民会館301～303号会議室 昼食用意有り

内 容： <第1部>
各平和委員会の活動交流集会 午前10時～午後2時
3つのグループに分かれての話し合い

<第2部>
「恒久派兵法」学習会 午後2時半～3時半
講 師：千坂 純 さん（日本平和委員会事務局長）
*各平和委員会複数参加をお願いします。

新型パトリオット（PAC3）配備反対 霞ヶ浦分屯地へ抗議・申し入れ

3月11日、米軍機くるな茨城実行委員会はパトリオットミサイルPAC3配備について航空自衛隊霞ヶ浦分屯基地に抗議の申し入れを行いました。県平和委員会・土浦平和の会・新婦人・茨城労連等が参加しました。

- ① PAC3は既存配備の地对空ミサイルと違い、対弾道ミサイル用のもの。アメリカのミサイル防衛計画の一環で、日本を戦争に巻き込むもので断じて許せない。
- ② PAC3は海上のイージス艦が打ち損ねた弾道ミサイルが垂直に落下してくるのを高度20キロの射程で打ち落とすというもの。打ち落とすとすれば無数の配備と基地の外に移動して発射しなければならない。住民の生活の場でミサイル発射。「とんでもない」ことである。
- ③ 1発7億円。それも発射訓練は日本で出来ずアメリカで「出張訓練」。福祉・医療・税金と国民いじめの政治の中で湯水のように税金を使う。この配備が何ら日本の防衛に役立たないかは明らか。怒り・抗議する。



平和かわら版

平和新聞茨城版

発行：茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

No. 496

月3回発行

2008.3.15



花には太陽を 子どもには平和を

宮本 礼（友部在住）

「あなたの夢は何ですか？ 私の夢は大人になるまで生きることです。」戦争によって大人まで生きられない貧しい国の子ども達・・・「いのち」の連鎖は、無我夢中で生きてきた親たちによって繋がれてきたと思います。

私の両親は昭和19年に結婚。父は23歳、母21歳でした。しかし、その5ヶ月後に父は召集令状が来て東南アジアへ。母は「銃後の母」になり、その3年間は、言葉では表現できないくらいの苦労をしました。残された家族は祖父と義姉・父の弟、妹たち8人の大家族。未だ若かった母は、母親代わりをしながらの生活は、過酷な試練の日々だったでしょう。配給された食糧では足りず、食料の買出しもままならず「明日の米はどうしようか」と考えあぐねていた母は、一人で泣いたそうです。

盲目の義姉と幼い弟妹を連れて避難する時の苦労と恐怖は、忘れられないと口癖のように申しています。花火の音は焼夷弾を、火事のサイレンは空襲警報を思い出してしまうようです。あの時の恐怖と悲惨な生活はフラッシュバックするのでしょうか。

召集令状が来た時祖父は、自分の息子が死んでしまう不安と絶望感を持ち、心の中で「必ず生きて帰って来いよ」と祈っていたこと。終戦後、マラリアと栄養失調で戻ってきた父の姿は、別人のようで、今でも脳裏に焼きついているとのこと。

生前、父は時折、私の息子（孫）達にお腹の傷跡を見せながら、「誰一人殺さなかったよ。上手に逃げて帰ってきた。」など冗談まじりで話していました。父も又、戦争の悲惨な状況・悲劇は口に出したくなかったのでしょう。兵隊や国民がしたくて戦争が始まるわけではありません。戦争も飢餓も、一部の権力者が起こす「人災」といっても過言ではありません。

生命を生み出す女性の、生まれながらにして備わっている直感的なものがあるのでしょうか、母は今の政治のあり方に不安を持ち、「二度と戦争はいやだ！！」と戦争への

危機感を肌で感じています。社会保障の改悪は、職の無い若者たちを必然的に戦争に追いやる条件を作っているように思います。戦争のことを伝えたり、話をしたりするとき、危機感だけではダメです。人は嫌なことは聞きたくありませんから・・・。戦争はいけないということだけでなく、平和だったらこんなことが実現できるとか、9条は世界でこんなに尊敬されているとか、明るい方向から投げかけていくことも大切なことかと思えます。

今を生きる子ども達を、またその子どもの子も達を、絶対に戦争で犠牲にしてはならないと強くおもいました。

子どもたちよ

あなたは知っているでしょう

正義ということ

正義とは 剣を抜くことでないことを

正義とは “あい（愛）” だということ

正義とは 母さんを悲しませないことだということ

みんな 母さんの子だから

子どもたちよ

あなたは知っているでしょう ～「慟哭」より～



年度末集金のお願い

各平和委員会の会計担当および会員のみなさんには大変お世話になっております。今年度も3月を残すのみとなりました。最終的には決算を締めなければわかりませんが今年度は収支のバランスが再建以来良好です。借入金78万円の返済もでき、さらに4月・5月分の経常支出を賄うことが出来そうです。ひとえに会員一人ひとりのご協力の賜ものです。来年度はさらに県財政とともに各平和委員会の財政の確立に努力していきたいと思えます。ご多忙とは存じますが、3月は年度末で決算月ですので月末までにご送金いただければ幸いです。

平和と医療

石岡平和の会 山口 由夫

私は「尿管結石症」で2月25日に入院、26日手術、27日退院した。

痛みは無かったが精密検査の結果、医師が、放置しておくとう尿が出にくくなり腎臓に悪さを与えるということなので、手術をして除去した。事前に手術の方法について細かに説明を受け、内心安易な気持ちであった。私はこれまで足の膝損傷で7日間入院、1泊2日の検査入院くらいの経験しかなかった。

今回は入院に際し、入院診療計画書への同意、手術の承諾書、麻酔承諾書、退院療養計画書への同意他1件と計5件も署名した。入院1夜明けて午後1時手術室入り、身体に心電図や血圧の測定器など器具をつけられ、麻酔注射。麻酔注射は脊髄くも膜下麻酔注入後、すぐにへそから下が無感覚となる。医師が早速手術に入り、その内容は手術台隅のテレビ画面へ鮮明に映し出される。レーザーにより、石が砕け散る様子がわかる。手術は無事に終わり病室に戻る。局所麻酔のため意識はハッキリしてるものの、下半身が全く意のままにならない。麻痺状態、変な気分である。排尿は管によつての強制排尿、何とも・・・麻酔が切れるまで5時間、この夜は点滴6本、手術が終わってから血圧と体温の測定が定時間毎行われ、胸にはバッチが貼られ心電図がナース室に送られている。以上概略を述べました。・・・何が言いたいのかは、戦争などになったら、このような医療はまず受けられないだろう。軍事優先で国民そっちのけの政治となるであろう。このことは千葉県房総沖でのイージス艦による漁船衝突事故が証明している。改めて平和のありがたさと尊さを思う。憲法9条を守ろうの気持ちがますます強くなった。

阿見の中島義夫さんが亡くなられました。小柄で、運動でいつも前を向いて、決してひるまず後ろをみない。お酒が好きで、今では少なくなりました。よく活動家の夕イブした。ご冥福を祈ります。（伊達）

事務局便り